

姉を助けてくれた税金

愛媛県立宇和島南中等教育学校 3年 青芝 亜希乃

私には、五歳年上の姉がいます。姉は予定日より二ヶ月早く低出生体重児で産まれました。松山市にある県立中央病院の周産期センターの集中治療室で約二ヶ月間入院していたそうです。小さく産まれたため、肺呼吸が上手く出来ませんでした。また、心臓にも病気があり、高度な治療が必要でした。父から教えてもらったのですが、その約二ヶ月間にかかる医療費が一千二百三十万円だったそうです。姉が産まれた当時、父も母も年齢的に若く収入が低かったため、医療費の支払いが重くのしかかっていたと思います。しかし、病院の方から、愛媛県の方から払ってもらえますよと教えていただき、申請をすることができました。約二ヶ月の入院を終えて、姉が無事に退院したときは、両親は心底ほっとしたそうです。その周産期センターには、たくさんの低出生体重児がいたらしく、姉と同じように高度な医療が必要な小さな赤ちゃんの大切な命を守るためにたくさんの税金が使われていると聞きました。日本の税にはたくさんの種類があることを授業で学びましたが、学生の私が今、直接関わっている税金といえば消費税くらいで、今の私にはそれほど関係ないと思い、あまり興味がわきませんでした。しかし、父と母から姉が産まれた時の話を聞いて、税金は大人だけのことだと思っていた自分の無知を思い知りました。税金が産まれたばかりの赤ちゃんにも使われていることを知って、日本に住む全員に使われているのだと改めて税の大切さを実感しました。今は各市町でも十五歳以下の人達の医療費の免除があります。私も現在、持病のため通院していますが、その医療費も町の税金で負担してもらっています。道路を直すのも税金、消防車や救急車の維持や出動なども税金とたくさんの人々が安全に安心して毎日を暮らせるようになるためにも使われています。テレビを見ているとニュースで税金の無駄使いだとかいろいろ批判的になっていることもありますが、私の姉の命を助けてくれたのも税金、そしてこれから産まれて来る赤ちゃん達の命を救ってくれるのにも税金が必要なので、私も社会人になったら少ない額かもしれませんが、しっかりと税金を納めたいと思います。姉は今、社会人になり元気に働いています。給料は少ないそうですが、少しずつでも税金を納めているみたいです。父は姉によく「お前は愛媛県の人みんなに助けてもらって、今、元気に働けるんやけん、今からはお前も頑張って働いて、今から産まれて来る小さな命のためにしっかりと税金を納めろよ」と言っています。毎日姉とくだらない話をしたり、たまにけんかもしますが、あの時、医療費を愛媛県から出してもらえなかったら、今こうして姉とあたり前の日常を過ごすこともできなかったのだと思うと税金に感謝の気持ちが沸いてきます。私も働くようになったら、税金をしっかりと納めようと思います。